



春季大会 県大会出場

春季県北地区予選では、佐竹高校と対戦。日立一野球部OB監督の対戦にもなったこのカード。日立一が2対1で競り勝ち、県大会出場を決めた。



初回、タイムリーヒットを放った青山



力投するエース木村

県大会では、一回戦鹿島学園と対戦。残念ながら、1対4で敗退、上位進出はならなかった。

大会メンバー	
⑦	鈴木彩
⑨	小室
⑧	佐藤翔
②	清水
①	木村
⑤	青山
③	磯部
④	橋本
⑥	塙

6月1日から河北大会開幕

夏の選手権予選の前哨戦ともいえる河北大会が、6月1日から開幕する。今年で67回目となる伝統ある大会に21校が参加。昨年、20年ぶりに19回目の優勝を果たした日立一高。ティフエンディングチャンピオンとして臨む今大会で、どのような一高旋風を巻き起こしてくれるのか。初戦は、6月3日(火)8時50分から、高萩市民球場にて東海高校と対戦する。決勝は、6月6日(金)13時50分から、同じ高萩市民球場。

選手名簿

No.	学年	氏名	出身中学	主なポジション
1	3	磯部元気	東海	一塁手
2	3	大内勇人	河原子	左翼手
3	3	鬼木駿一	久慈	左翼手
4	3	櫻村健吾	十王	投手
5	3	小室凌	多賀	右翼手
6	3主	佐藤翔太	秋山	中堅手
7	3	清水大地	豊浦	捕手
8	3	高野将至	東海	中堅手
9	3	寺崎葵	磯原	一塁手
10	3	濱口哲弥	佐野	投手
11	2	青山尚寛	河原子	三塁手
12	2	赤津健太郎	大久保	投手
13	2	石川陽大	滑川	右翼手
14	2	鴨志田浩大	滑川	投手
15	2	城井智仁	坂本	二塁手
16	2	小守慧太	東海	三塁手
17	2	木村亮介	水戸五	投手
18	2	高根達弘	坂本	投手
19	2	塙拓大	勝田一	遊撃手
20	2	山館慧汰	秋山	二塁手
21	2	渡邊文弥	磯原	捕手
22	2	佐久間涼子	勝田一	マネージャー
23	1	池田亮平	駒王	二塁手
24	1	板垣慶亮	関本	三塁手
25	1	榎本拓末	坂本	三塁手
26	1	片山皓心	勝田一	投手
27	1	菊池泰雅	多賀	右翼手
28	1	黒澤大輝	多賀	遊撃手
29	1	栗田大樹	勝田三	一塁手
30	1	佐川太一	多賀	中堅手
31	1	佐藤泰大	太田	一塁手
32	1	鈴木彩斗	中郷	投手
33	1	鈴木綾人	東海	三塁手
34	1	鈴木琢郎	勝田三	左翼手
35	1	鈴木伶司	峰山	左翼手
36	1	住谷欽太	勝田三	投手
37	1	関貴弘	中郷	捕手
38	1	高倉直幸	太田	二塁手
39	1	橋本聖紀	東海	二塁手
40	1	宮内俊輔	那珂四	遊撃手
41	1	吉原淳朗	国田	左翼手
42	1	吉原研斗	豊浦	遊撃手
43	1	綿引悠人	峰山	中堅手
44	1	大越桃子	田彦	マネージャー
45	1	蛭田美保	中郷	マネージャー
46	1	松川宙未	多賀	マネージャー

中山監督 2014年度指導者講習会(シンポジウム)にパネラー出演

「野球指導者講習会(主催:全日本野球協会、日本野球機構)」が、1月17日から19日の3日間、にわたり幕張メッセを会場に開催された。



中山 顕  
日立第一高監督

プロ・アマ両球界から多数の指導者が参加した当講習会に中山監督がシンポジウムパネラーとして出演し、指導方針など自らの考えを示した。

指導方針

Q 指導上、意識する点は？  
中山監督 「自分を育てようとする心を育てること。監督が選手を育てるのではなく、自分自身で育つ、自分で向上していくこととする、そういう気持ちにさせることを心がけています。」

Q 選手に自分の長所や強みを気づかせるということか？  
中山監督 そうです。方法はさまざまありますが、一つは「物を書く」こと。もう一つは「ミーティング」。野球とは関係のない分野の方にお願ひして、考え方や自分を見つめ直すといったセミナー形式で行っています。「気づき」により、努力する方向性が集約され、はつきりします。

理想のキャプテン像

Q キャプテンの決め方は？  
中山監督 非常に大切なポストなので私が指名します。その際、選手達には、なぜ彼を選んだのか理由をきちんと伝えます。

独自の練習法・技術観

Q 特別な練習方法があれば教えてください。  
中山監督 さまざまな負荷をかけた練習を行っています。例えば、投手は、初球「直球」しか投げてはいけない。但し、ボールでよい。打者は直球とわかっているので、見逃したら三振。投手に

指導者として大切な点

Q 指導者に必要なことは？  
中山監督 「指導者としてやるうとしていくことは一人ではできないこと」を自覚する点です。そして、自分の弱みも全てさらけ出して、選手たちに向き合うことが大切です。決して、高校時代がゴールではありません。とはいえないからこそ「甲子園が全てではない」と言わずに、今しかできないことに全力で取り組むことが、後々の自分に繋がります。だから、今は甲子園が全てだと考えて取り組んでもいいんじゃないかと、いう気持ちでやっています。

負荷をかけるときは、初球必ず「変化球」でストライクを取らなければならぬ。取れなければ四球、など。  
この練習で、やるのが明確になり、プレーのテンポも上がります。甲子園では、早いテンポが求められると聞き、「甲子園リズムゲーム」と名付けて行っています。早い展開の中で迷わず判断できる力も養うことができます。